

**エントリー名：仙台市立沖野小学校**

**学校名：仙台市立沖野小学校**

**活動名：見える手応え、みんなで継続  
 ～ 目標の焦点化と取組の共有で子供を伸ばす ～**

**解決すべき課題：**

- ・ **目標の希薄化**…年度始めに立てた目標が日々の教育活動の中に埋もれ、意識が薄くなる。
- ・ **取組への温度差**…教員により取組への温度差があり、学校全体の児童の伸びに繋がらない。
- ・ **課題の非共有**…学校課題や取組が、保護者や地域と効果的に共有できていない。
- ・ **自己有用感の低下**…その結果、取組の効果を感じられず、教員の自己有用感が高まらない。

**目標 1 目標と取組を**焦点化**し、全教職員、保護者、地域で**共有・継続**して、教育効果を高める。**

**2 児童と教職員が取組の効果や改善の**手応えを感じ**、取組の継続意欲を高める。**

**方針 1 全職員が納得する目標とするために、**実態を丁寧に分析し目標の焦点化**を図る。**

**2 共通行動ができるようにするために、**取組の具体化**を図る。**

**3 保護者、地域と協働するため、**保護者、地域も主体者意識を持つ工夫**をする。**

**4 取組への意欲を持続するために、**取組の効果をフィードバック**する。**

**活動 1 **実態を丁寧に分析し目標の焦点化**を図る** ……右ページ**1 2**

- ・ 本校の課題をより具体的に把握するために「仙台市生活状況調査」の学年別の数値データを可視化し分析。次年度の目標を「聞く力」「読む力」「自己肯定感」の育成の三つに焦点化した。

**活動 2 **取組の具体化**を図る。** ……右ページ**3**

- ・ 三つの目標を達成するための具体的な取組について整理。「無理なく・みんなで・継続できる」をキーワードにしたワークショップを実施。話し合いによるボトムアップの提案がされ、共通目標のもと共通行動をしようという意識が醸成された。
- ・ 「新規」の取組を考えるだけでなく、効果があるので「継続」したい取組や、取組に温度差があるので改めて皆でしっかり行いたいという「充実」を図りたい取組もワークショップの中で確認した。従来の取組の中で大切にしたいものを皆で再確認し、新規の取組は必要最小限としたことで、教職員の負担感を少なくした。
- ・ 全職員で取り組むことになった実践は以下のとおり。

聞く力の育成のため…読み聞かせタイム／詩の暗唱／聴き方スタンダードの設定	新規
読む力の育成のため…朝読書タイム／食後読書／図書時間の確保／	充実
自己肯定感の育成のため…児童の良い姿を掲示板で紹介／異学年交流の充実	継続

**活動 3 **保護者、地域も主体者意識を持つ工夫**** ……右ページ**4 5**

- ・ 保護者に「わが家の重点目標カード」を配布。QRコードを付け、読み取ると動画で本校の課題と取組を視聴できるようにした。視聴後に、家庭での取組を子供と話し合って記入し提出してもらったこととした。
- ・ 学校運営協議会で、データを用いて本校の現状を率直に伝え、地域として今後できることについて熟議を重ね、整理していただいた。  
 (取組案…家庭でも読み聞かせ／地域人材による働く意義の授業／放課後寺子屋の開催など)

**活動 4 **取組の効果のフィードバック**** ……右ページ**6**

- ・ 10月、取組の効果を確認するために全児童に意識調査を実施。調査はギガスクール端末(GoogleForms)を利用し、集計の負担軽減を図った。可視化して見合うことで効果を確認し、特に成果が上がった学級で工夫している取組を校内研修で分かち合う場を設けて教員のモチベーションを高めると共に職員全体のレベルアップにつなげた。さらに、昨年度のワークショップ記録を皆で見直し、初心を確認した。

**取組の過程**

**1 またこの課題!?**  
 「基礎学力の向上」と「思いやりの気持ちの育成」。学力調査や意識調査から、毎年本校の課題として挙げられるのはこの2点だ。個別学習やドリルの活用などの取組を各々の教員が行っているのだが顕著な改善が見られない。いつも年度末の職員室には閉塞感が漂っていた。

**2 今年は一歩踏み込んで(データに基づいた実態分析と目標の焦点化)**  
 そこで、今まで学年別に分析していた資料を、全学年分並べてグラフ化して皆で見直した。すると「全体の傾向」「学年を追っての変化」「関連する内容」が容易に認識できるようになった。分析の結果「全学年で読解力と自己肯定感が市平均を下回り、学年が上がるほどその差が開いている」「読解力と読書時間が相関を持って下がっている」ことが見えてきた。「漢字や計算のスキル向上の取組より、まず読む力の育成が必要だ。」「他者受容のために、まず自己肯定感が大切だ。」「聞く力も改善したい。」と意見がまとまった。次年度は全教職員で、この三つの目標に絞って取組を行うこととなった。

**3 やれることをみんなで(取組の具体化と共通行動意識の醸成)**  
 目標が焦点化されたことで具体的な取組を考えやすくなった。「無理なく・全員で・継続できる」という視点のもと意見を出し合った。若手教員が柔軟な発想でアイデアを出し、ベテラン教員が「新しいことばかりでなく今までしてきたことも大切にしよう」と呼び掛けた。このワークショップを経て、**やれることをみんなで確実にやろうという気運が高まっていった。**(左側「活動2」)

**4 保護者も共に～校長、YouTuberになる?～ 保護者も主体者意識を持つ工夫)**  
 4月の学校運営説明会。私達の新しい取組を保護者に説明する絶好の機会だったが、感染予防のために中止。そこで、動画で学校課題と取組を伝えることとした。スマホですぐに視聴できるようにQRコードを付けた『わが家の重点目標カード』を配布。目標も取組も明瞭なので動画時間は5分間にまとめ、視聴後にカードに家庭での取組を記入して提出するという宿題付きとした。再生回数390回。ほぼ全家庭で視聴した数となった。

**5 地域も巻き込んで(地域も主体者意識を持つ工夫)**  
 学校運営協議会では、教職員が分析で使用したグラフをそのまま示し、本校の課題について率直にお伝えして「共にできることを考えて頂きたい。」とお願ひした。年齢も職種も異なる委員の皆さんが沖野の子供達のために本気になってワークショップを行った。生まれて初めてワークショップをしたという町内会長さんもいらした。4回もの熟議を重ね、教職員の取組を理解して頂き、地域としての取組を共に考えられたのは大きな成果だった。(左側「活動3」)

**6 手応えを感じ、モチベーションアップ(効果のフィードバック)**  
 教職員がみんなで継続し家庭とも連携した取組は、やはり効果があり、中間の意識調査では大きな伸びが見られた。結果を可視化し職員で共有すると「こんなに伸びているんですね。」と喜びの声が聞かれた。ブログやお便り、朝会等で児童、保護者とも成果を共有した。取組の効果を確認できたことで児童・教員に自信が付き、取組継続の意欲が更に高まっているのを感じた。

**活動の成果：目標1について(児童の意識調査から)**

○1日の読書時間(漫画以外)	○自分にはよいところがあると思う
4月 0分 10分 30分 1時間～	4月 否定的回答 肯定的回答
10月	10月
○人の話をよく聞いているか(10月のみ調査)	○人が困っているときは進んで助ける
4月	4月 肯定的回答
10月	10月
できている	できていない

**目標2について(教員の意識調査から)**

○取組に効果を感じるか	感じる3%	とても感じる97%
○今の取組を継続したいか	継続したい 100%	

目標と取組の焦点化と継続により成果が上がり教職員も効果を感じている。教職員の継続意欲の高まりも確認できた。